



国際シンポジウム

農業の持続可能性評価の試みと有機農業

持続可能な開発目標（SDGs）が国際的課題とされる中、国連食糧農業機関（FAO）は「食料農業システムの持続可能性評価ガイドライン」を策定し、環境、経済、社会、ガバナンス等の多角的な持続可能性評価手法の開発を促している。本シンポジウムでは、ヨーロッパ諸国の有機農業・市場の動向と関連政策をふまえて、食料・農業システムの持続可能性評価手法の開発事例について講演をいただく。また日本の農業・食品産業部門への適用可能性と課題について考える。

日 時：2018年 10月 4日（木） 15：00～ 18：30

場 所：立教大学 池袋キャンパス 7号館 7101教室

プログラム：

開会挨拶 大友 敏明（本学経済学部教授、立教大学経済研究所長）

第1部 基調講演 15：00～17：30

- ◇ ヨーロッパにおける有機セクターの展開状況と農政改革の潮流
マティアス・シュトルツェ氏（スイス・有機農業研究所FiBL 理事 社会経済研究部長）
- ◇ 食料農業システムの持続可能性評価手法の開発：SMARTの試み
クリスチャン・シャダー氏（スイス・有機農業研究所FiBL 持続可能性評価研究グループリーダー）
- ◇ 有機農業のデータ収集について
大山 利男（本学経済学部准教授）
- ◇ 有機市場のデータ収集システムについて
谷口 葉子氏（宮城大学食産業学群講師）

第2部 パネル・ディスカッション 17：45～18：30

<司会> 大山 利男

対 象：本学学生・院生・教職員・一般

参加費：無料

言 語：日本語・英語（通訳あり）



主催 立教大学経済研究所

お問合せ：03-3985-4121（月・水・金 9：00～17：00）E-mail: r-inst-e@rikkyo.ac.jp